

# 6GHz帯周波数共用アドホックグループの検討状況

---

令和3年12月24日

事 務 局

開催日等:

令和3年11月29日(月)10時00分～11時25分@Web会議(非公開)

議事概要:

## (1) 混信防止機能等の制度

- 事務局から、無線LANの混信防止機能及び運用条件について、国内法令に基づく規定が紹介され、6GHz帯への適用に関して意見交換を行った。
- 既存無線システムへの混信防止のための有効な方策として、無線LANに運用制限を課す（屋内利用やAFC機能を具備する）、送信電力を下げる、あるいは無線LANチャンネルの優先順位を規定する等の意見があった。
- ユーザへの啓蒙活動より、混信保護を技術的に担保にすることが重要との意見があった。

## (2) AFCの概要と我が国に導入するための課題

- クアルコムジャパンから、米国でのAFC（Automated Frequency Coordination）に関するFCCの規定及び運用、我が国にAFCを導入する場合の課題等について紹介がなされた。
- 米国AFCシステムに関して、位置特定の信頼度95%についての確認や、仮に位置特定に誤りがあった場合の影響等について懸念が示された。AFCが参照する既存無線システムの諸元情報（空中線の指向性や利得等が含まれているか）について確認がなされた。
- 我が国にAFCを導入する際に、運用主体やシステム構築や維持管理に係る費用負担のあり方について検討が必要であること、AFCが管理する情報が外部に漏洩しないよう不正アクセス防止のための対策等の議論がなされた。

## (3) 6GHz帯無線LANの屋内利用

- 事務局から、無線LANの屋内利用に関する考え方等が紹介され、意見交換を行った。
- 屋内利用時の無線LANの出力に関しては、現在、調査検討会で実施している周波数共用検討結果を踏まえ、決定されるべきと説明がなされた。
- 建物遮蔽損失16.8dBの妥当性や、トラディショナルなもののみならず、最新の建築物の損失を考慮した数値の適用の必要性について意見がなされた。
- 現段階で屋内利用の検討を行う目的に関して質問があり、諸外国の殆どは屋内利用を想定した検討が進んでいることを踏まえ、アドホックグループで検討を行うこととした旨の回答が事務局からなされた。